

＃一モンくん みやこちゃんの GEO 発見新聞



三陸ジオパーク
Sanriku Geopark

～悠久の大地と海と
ともに生きる～



今年も、宮古市の小学校の総合的な学習の時間に、ジオサイトを活用した出前授業を行いました。

十一月三〇日には山口小学校の六年生(三九名)、十二月七日には銚ヶ崎小学校の六年生(二六名)が、震災メモリアルパーク中の浜と田老地区のジオサイトを周り、大震災の被害と復興の状況、そして防災について学習しました。

「津波の速さってポルトと同じだよ」「自分から逃げよう!」と言える人になろう!」ガイドさんのお話を聞く児童の顔は、みんな真剣そのもの。これからも海と一緒に生きていくために大切なことを学びました。

市内の小学生に出前授業を行いました!



↑ 山口小6年生

田老の漁港では「学ぶ防災」のガイド・佐々木純子さんから話を聞きました。

← 銚ヶ崎小6年生

右: 中の浜では「浄土ヶ浜ネイチャーガイド」の佐々木洋介さんから津波の大きさを学びました。

左: 雨のため、道の駅たろうの潮里ステーションでDVDを鑑賞。



ジオパークってなんだろう?

人の営み・自然・大地の結びつきが学べて、楽しめるところが「ジオパーク」となっているよ!



宮古市三陸ジオパーク推進協議会では、出前授業を行っています。お気軽にお問い合わせください。(宮古市観光課)

- ①茂師海岸の熊の鼻展望台にて
- ②龍泉洞でのガイドの方々
- ③研修での参加者による交流



三陸各地のジオパーク仲間が交流！ ジオパーク活動報告



難しい話をしないで
お客さんと呼ぼう！

公立鳥取環境大学
柚洞一央 准教授



下仁田ジオパーク(群馬県)の原秀男下仁田町長からは、ジオパーク再認定へ向けた取り組みについてお話しいただきました。



三陸中部のジオパーク関係者が岩泉町で研修
十一月六日、岩泉町三陸ジオパーク推進協議会の研修会が岩泉町内で開催されました。宮古市・山田町・田野畑村からも大勢のガイドや関係者が参加し、交流を深めました。
午前中は、昨年の三陸ジオパーク再認定審査で審査員を務めた柚洞一央准教授が講演し、大地と人のつながりを楽しんで伝えていくジオパークの取り組みや、不安定な大地の日本で私たちがどう生きてきたのかを伝えよう、というお話をいただきました。
午後は、岩泉観光ガイド協会の方々の案内で、岩泉の代表的なジオサイト、龍泉洞と茂師(もし)海岸を訪れました。見学を終えた参加者の中では、三陸ジオパークの中で何ができるかについて、活発な議論が交わされました。

二日目は、北三陸のジオサイトを巡るツアーが行われ、地元のジオガイドクラブの方々に、久慈市内の見どころや、北三陸の地形の特徴である海成段丘を案内していただきました。
二日目は、下仁田ジオパークの原秀男町長の講演と、地元中学生やガイドクラブの事例発表が行われ、参加者はジオパーク活動への理解を深めました。

久慈で三陸ジオパークフォーラムが開催！
十一月六日・七日に久慈地域で三陸ジオパークフォーラムが開催され、県内外の約一五〇名ものジオパーク関係者が一堂に集まりました。



津波遺構 たろう観光ホテル 一般公開を行いました

11月23日・24日の無料公開にはたくさんの方が来場し、「学ぶ防災」ガイドの案内で館内を見学していただきました。岩泉観光ガイド協会の皆さんにもお越しいただきました。



- ① 石灰岩の岩肌が特徴的な久慈溪流
- ② 事例発表も行ったガイドの島川氏
- ③ “あまちゃん”ガイドの藤織氏

宮古市のジオサイト紹介パンフ



www.facebook.com/Miyako.Geopark

Facebook



www.twitter.com/Miyako_Geopark

twitter



GEO発見新聞バックナンバー

